

# 【公立大学法人横浜市立大学平成19年度年度計画概要図】

中期目標・中期計画期間（17～22年度）

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
------	------	------	------	------	------

【中期目標】・横浜市立大学が市が有する意義ある大学として、市民が誇りうる、市民に貢献する大学となること。実践的な国際教養大学となること。

◆これまでの施策を成果へ結び付け大学のブランド力を高めるため、教職員が一体となり『魅力ある横浜市大づくり』に向かって積極的に取り組みます。

◆中期計画の中間年として、計画達成に向けた課題の発見と解決にチャレンジします。



## 教育



◆学生の支援については、特待生制度や健康管理相談体制などをさらに充実する。

17→→推進→→22

- ・メンタルヘルス相談及び健康管理相談体制の充実
- ・成績優秀者特待生制度等の奨学金制度の創設

・テープライブラリ土・日開館

・学習環境の充実のための施設整備、キャンパスアメニティの向上

・卒業生に「キャリアサポーター」登録の呼びかけや、「キャリアサポーター」の集いの開催

・21年度入試改革へ向けての準備、入学前教育の実施

◆学部・19年度は、現行の教育体制の充実と、新たなブランド創出に向けた取組を実施する。

17実施 | 19見直し充実 | 21新コース等設置

●(共通) 共通教養教育の充実

- ・新たに設置するプラクティカルイングリッシュセンターの活用や、英語の授業を増やすなど英語教育の充実

【国際総合科学部】

- ・「戦略的教育費」による市大の新たなブランド創出に向けた取組
- ・2年間の取組を踏まえ、コースの見直しに着手

【医学部(医学科・看護学科)】

- ・専門教育におけるカリキュラムの改善充実及び医師としての倫理観など人間性や社会性の一層の醸成
- ・現代的教育ニーズ取組プログラム(現代GP)などを通じた、入学時からの地域医療への貢献の意識付け

◆大学院・19年度は、学部教育と一貫した大学院のあり方など大学院改革を推進する。

18検討 | 19方針決定 | 20設置準備 | 21設置

【国際総合科学研究科】

- ・新たな専攻の設置準備等大学院改革の推進
- ・社会人等の幅広いニーズに対応するカリキュラムの検討

【医学研究科】

- ・臨床試験専門職大学院の設置に向けた準備
- ・修士課程の臨床薬学コース、博士課程の社会人学生受入れコースの円滑な運営

・FD支援の充実、教員評価制度の本格実施

## 研究

◆先端医科学研究センターの機能拡充など研究体制を充実し、共同研究を促進する。

18先端研設置 | 19拡充 | 22推進

- ・「戦略的研究費」「教育研究費」の効果的かつ適正な運用
- ・木原生物研究所において、最先端の植物ゲノム科学研究を目指す
- ・米国食品薬品庁(FDA)との連携による人材育成と研究交流
- ・産業界との共同研究の促進、研究成果の公表
- ・先端医科学研究センターの機能拡充

## 病院

- ・TRY2010(先進医療推進事業)の推進
- ・2病院の連携による医療安全文化の醸成
- ・電子カルテの整備着手
- ・医師不足診療科対策
- ・研修医育成のための指導体制の充実

◆電子カルテの整備に着手する。また、医師不足診療科対策に取り組む。

19電子カルテ整備着手 | 21本格稼働

研究成果を教育に反映

## 国際化・世界に開かれた大学づくり

◆英語による授業の充実や、FDAなど海外の研究機関や大学等との連携を深める。

17検討 | 19基盤整備 | 22充実

- ・特待奨学生留学プログラムの導入に向けての協議
- ・英語による授業運営に関する効果的支援
- ・英語によるサマープログラム開講
- ・FDA等とのネットワークの強化
- ・JICAなどとの連携強化

- ・横浜市民への多様な学習機会の提供
- ・包括的基本協定等に基づく産学連携事業の推進
  - ・大学施設の開放
- ・教育委員会との協定による高大連携

◆地域医療の充実や、エクステンションセンターによる多様な学習機会の提供を行う。

18センターの設置 | 19講座の拡充 | 22改善充実

## 地域貢献・地域ニーズへの積極的な対応

医療人の育成

「法人の運営」 ・人材開発プランの実施 ・安定した運営を目指した学費改定等による自己収入の確保 ・教員評価制度の本格実施  
 ・学生と協働した大学広報の拡充 ・コンプライアンス推進体制の運用 ・評価及び経営に役立つ大学総合データベースの構築